

公開シンポジウム

サル サル サル 申・猴・猿と日本人

私たちにとってニホンザルとは
過去と現在と未来とー



主催 :宮城県、宮城のサル調査会
後援 :日本霊長類学会、宮城教育大学環境教育
実践研究センター、宮城県教育委員会、
仙台市教育委員会
河北新報社、毎日新聞社

日時 :6月27日 金曜日
14:00~16:30

場所 :宮城県県庁
行政庁舎 2階講堂

かつて、サルは山奥で、人は里で、くらしていました。そして、両者の“共有地”として里山があり、そこでは、両者の間に緊張関係がありました。ところが、今ではサルは、里に下りることが多くなり、人なれし、各地でトラブルが発生しています。

昔の人にとって、サルはどんな存在だったのでしょうか。人とサルのトラブルは、どうして起きているのでしょうか。

私たちは、過去と現在を正しく知ること、今後、サルとどのような付き合いをしたら良いか、見出していきたいと思います。

演者

三戸幸久 (日本モンキーセンター 主任学芸員) 『東北地方のサルと人の交流史』

松岡史朗 (動物写真家、獣医師) 『天然記念物・北限のサルと下北の人々』

野崎英吉 (石川県白山自然保護センター 主任研究員) 『里に下りたサルを追って』

伊沢紘生 (宮城教育大学 教授) 『宮城県のサルの過去と現在』

総合討論 『宮城県のサルの将来 私たちはどうつき合っていけばよいかー』



連絡先)宮城県環境生活部自然保護課 TEL 022 211 2678
宮城のサル調査会 TEL・FAX 022 214 3515